

青梅市文化財ニュース

第459号

令和8年1月15日

発行 青梅市文化財保護指導員連絡協議会

青梅市郷土博物館(青梅市駒木町 1-684 Tel0428-23-6859)

明治初期の教科書リスト—小曾木地域にみる「村の学び」の歩み—

明治5(1872)年に公布された「学制」は、身分や性別を問わず、すべての人が学ぶことを目指す「国民皆学」の理念を掲げ、日本に近代教育制度をもたらしました。しかし、その運営の実態は、校舎の建設費や教員の給与、教科書や学用品の購入費などを地域住民が負担する仕組みであり、当時の農村社会にとっては大きな重荷でもありました。

現在の青梅市を含む西多摩地域は、当時は神奈川県に属しており、近代国家建設を進める国の方針のもと、地方においても学校整備が求められていました。こうした時代背景のなかで、小曾木地区がどのようにして学校を設立し、維持してきたのかを知る手がかりとなるのが、近年、宿谷家の蔵から見つかった資料群です。宿谷家に伝わる全19冊の『宿谷家日記』や『学校資本金簿』、教科書・学用品の購入記録などは、明治初期の地域教育の実像を具体的に伝える貴重な資料です。なお、『宿谷家日記』については、これまでの文化財ニュースでも簡単にご紹介してきましたが、今回は特に学校教育に関わる記録に注目します。

小曾木における近代教育の第一歩は、明治6(1873)年12月、地域の名刹である高德寺に開校した「小曾木学舎」から始まりました。この設立において中心的な役割を果たしたのが、当時、村の財政や実務を担う「むらようがかり村用掛」を務めていた宿谷八郎兵衛です。村用掛は、税務や文書管理など村政の実務を担う役職であり、学校設立期には校舎の整備、教員の給与支払い、教材や学用品の調達といった事務一切を引き受ける立場にありました。さらに八郎兵衛は、のちに学務委員としても教育行政に携わり、学校運営と教育内容の両面から地域の学びを支え続けました。

開校当初の小曾木学舎は、安定した財源を持たず、収支は慢性的な赤字状態でした。そのなかで八郎兵衛は、学校の存続を守るため、不足分を自らの私財で立て替えながら運営を支え続けました。



『関八州名士肖像録』より

しかし、こうした個人の負担に頼る運営は長続きしません。そこで八郎兵衛たちは、学校を村全体で支える仕組みへと転換していきます。明治8（1875）年頃から本格化した「学校資本金」制度では、地域の有力者だけでなく一般農民層を含む156名もの村民から出資を募りました。出資金は各自が借りた形とし、年一割五分ほどの利子を学校に納めるという工夫が凝らされていました。さらに明治15（1882）年頃には、相互扶助の仕組みである「学校無尽（講）」も導入され、資金確保はより安定したものとなります。

これらの取り組みにより、明治17（1884）年には学校運営費の約93%が資本金の利子などで賄われるようになり、小曾木学舎では授業料を徴収しない、いわば「学費無料」の学校運営が実現しました。当時の農村小学校としては、きわめて先進的な事例といえるでしょう。

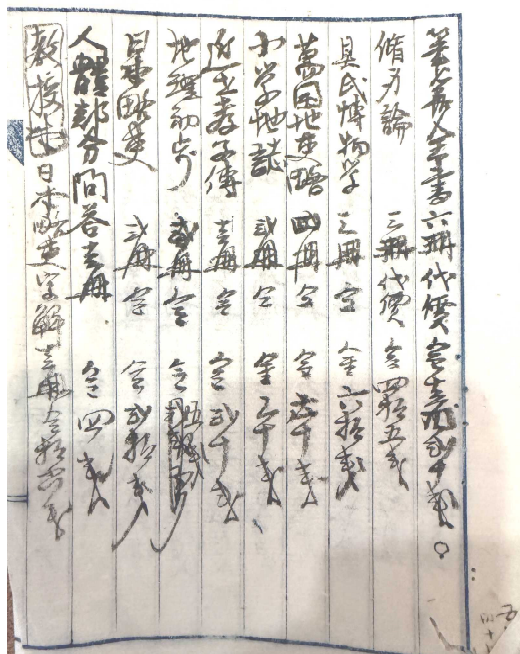
安定した運営は、教育内容の充実にもつながりました。八郎兵衛が記した教科書・学用品の購入記録によれば、書名約55種類、総冊数145冊に及ぶ教材が整えられており、学用品を含めた購入総額は金三十一円三十七銭に達しています。冊数ベースで見ると、地理・歴史分野が約33%を占め、『萬國地史略』『万国史略』などを通じて、世界の中での日本の位置を学ばせる教育が重視されていました。次いで国語・辞書類が約28%、算術や理科などの実学分野が約23%、修身・道徳分野が約16%と続き、知識・技能・人格形成のバランスを意識した教育課程が構想されていたことがわかります。

授業では、地球儀や暗射図（白地図）、単語図・短句図といった視覚教材、玉算器（そろばん）、石盤などが用いられ、実践的な学習が行われていました。これらの教材は、当時の農村学校としては非常に充実したものであり、子どもたちにより良い学びを与えようとする地域の強い意志が感じられます。

少子化に伴う学校の統廃合が検討されている現在、学校の存在は地域のつながりや将来像とも深く関わっています。約150年前、限られた条件の中で知恵と協力を重ね、学校を守り育ててきた小曾木の人々の歩みは、現代の私たちに多くの示唆を与えてくれます。宿谷家に残る資料は、地域が自らの未来を切り開こうとした確かな証であり、これからの地域と教育のあり方を考えるための重要な手がかりとなるでしょう。

参考文献

- ・小曾木近代誌執筆委員会編『小曾木近代誌』
青梅市立第七小学校百周年記念事業実行委員会 昭和49年
- ・青梅市教育史編さん会議編『青梅市教育史』青梅市教育委員会発行 平成9年
(文責 儘田菜つ美)



個人蔵